

地域づくり懇談会

# 『まちづくり』を『夢みる』

町長と語る

『まちづくり どう夢みる』と題し、2月から町内の全集落を対象に地域づくり懇談会が開催されました。  
今回はその懇談会で感じられたことを町長に聞きました。



新しい地域づくりをみなさんと語る

**Q** 2月8日から始まりました「地域づくりについて町長と語る会」が6月14日の三崎区を最後に、町内を一巡し終了したわけですが、全体的な感想をお願いします。

**A** 最初にご参加を頂きました皆様には厚くお礼を申し上げます。特に会見地区は人も地域も初めてでしたので、何もかもが新鮮でとても勉強になりました。忙しくても住民の生の声を聞きながら、町政を進めていくことの大切さを改めて認識した次第です。

**Q** 実際に各集落に出かけられて町民の地域づくりに対する意見を聞かれどう思われますか。

**A** 会見地区での印象は町政がきめ細かに進められており、行政を身近に感じておられるだろうと思いました。行政は信頼されていると思いますが、一方では行政まかせの無関心な面もあると思います。西伯地区では6地区にまとめ

て開催し、話題も自治区の創設に絞りましたので単純な比較はできません。自分達の地域を良くして行くこととする熱意はいつでも同じですが、自治区については話し合いにスムーズに入れたことから、様々な課題について地域で取り組んできた西伯と、全町で取り組んできた会見との温度差があると感じました。

**Q** 今回の懇談会に対する集落からの参加人数についてはどうですか。

**A** 小さな集落からはたくさん出席して頂いたように思いますし、大きな集落からは比較的に少ない参加者だったと思います。合併して最初の懇談会ですから新しい町政に対して関心が高く、たくさんの方が参加するだろうと期待していました。懇談会のたびに少しずつ増えていくような、手ごたえのある町政を展開して行かなければいけませんね。

**Q** 地域づくり懇談会では、たくさんの質問が出ていますが、主なものに対しても一度町長の考えをお聞かせください。(質問12問)

## 地域自治区の区割りについて

①人口2000人程度にこだわる理由はなにか。たたき台としてお示しました。西伯町にお



地域づくりの思いを語る坂本町長

ける経験から自治を考えた場合、2千人程度の人口があれば福祉、教育、文化、農業面など人材が豊富で、皆さんの協働によって个性的な地域づくりが可能であると考えます。あまりに少ないとイベントをしても盛り上がりませんし、余りに大きいと他人ごとで無責任な体質になりがちです。

② 谷が違う地区を同じ自治区にできるのか。交通の便は良くなり谷が違って連携して地域づくりを行うことは十分に可能です。特に谷筋は人口が少なく少子高齢化が一層進んで

いますから、谷の違いを乗り越えてでも連携し力を合わせて取り組むことが必要ではないでしょうか。誤解があってはなりません。地域自治区の創設は少子高齢化や地方分権、住民自治、国、地方をあげての厳しい財政状況など、社会の状況変化によって生じた新たな課題に対応することを目的としています。従って従来から取り組んでこられた地域の行事などについて、自治区が一緒だから一緒に行わなければならない訳ではありません。しかし、話し合いによって一緒にやれることは進んでやって頂き、より大きな成果を収めて頂きたいと思えます。

③ 合併して一体感を持つ時期なのになぜ分割か。平成12年に地方分権一括法により国、県、町は従来の上下主従関係から、対等協力関係に変わりました。パートナーとしてふさわしい行財政の力量を持った町が求められ、私達は合併によってその体制を整えてきました。これを役場までに止めず住民の皆さんまで届けなければ真の地方分権になりませんから、パートナーとして役場とお付き合いをして頂くための組織づくりということ。一体感を持つことは当然必要で、スポーツイベントを開催したり、CATV施設整備によって情報を共有することなどにより十分可能と考えます。

#### 予算について

④ 財源は何に使っても良いのか。基本的には財源は税金ですから無駄遣いはできません。自治区で話し合い、予算を作って計画的に執行して頂くこととなります。役場は自治区の自主性を尊重し関与は控え目にすべきだと考えています。

⑤ 何をもとに財源を与えるのか。

区長報酬や公民館関係の予算などをはじめ、地域で行うべきであると考えられる現在の町予算は移譲する事となります。財源確保の第一環として公共施設の維持管理について自治区が優先的に担うことを考えています。

⑥ 予算配分は人口規模で違うのか。

平等割、人口割、地域事情などを考慮し配分することとなると思えます。

#### 組織について

⑦ 組織役員はどんな編成になるのか。

一般的には会長、副会長を地域の互選で町にご推薦いただき町長が任命します。その下に事務局を設置し町から2ないし3名の町職員を派遣することとします。事務局には総務企画部、生涯学習部、地域づくり部、ふれあい部などを設け、様々な課題に対応できる体制

を作って頂きたいと思えます。なお各集落の区長さんについては自治組織の中の一機関として位置づけ、事業計画や予算を審議し議決する議決機関がよいのではないかと考えます。

⑧ 町の職員は給料が出るが、役員は何もでないのは不公平ではないか。

会長、副会長は町の特別職として町で処遇し、区長、各部長などについては自治区で話し合っ  
て決めて頂きます。

⑨ 自治区に具体的にどんな役割をしてほしいのか。

真に住みよい町づくりを実現するには他人から与えられるのではなく、自らが地域づくりに参加し自分の住む地域を作っていくことが必要です。生活環境の改善、健康管理・増進、福祉の向上、文化・学習・スポーツ活動、生活安全の確保・産業振興などの行政課題のうち、地域で出来る事を地域で果たして欲しいと願っています。

## その他

⑩ 組織にどの程度の責任、権限を与えるのか。

自治組織の構築は段階を踏んで進めたいと思います。ステップ1として地域計画、事業計画に基づき、事業やその優先順位を町に提案

する提案型の組織を構想しています。ステップ2として予算枠の中で主体的に事業と優先順位を自らが決定して事業を行うことを構想します。役場は自治区と相談しながら役場で行っていた業務のなかで地域が担うことができる事業は少しずつ権限と財源を移譲していきます。例えば防犯灯の設置など簡単なものから少しずつ取り組んでいけばよいと思います。

⑪ 住民と役場の間に自治区が入れば役場が遠くなり顔の見える町政にならないのでは。

自治区には町職員もいますし課題解決の場が身近にできるのですから、今まで以上に行政を身近に感じて頂けるものと思います。仕事のすみ分けが出来て地域で出来ることを地域で担って頂くと、役場職員は専門性を高めることが出来ますので、今まで以上に頼りになる役場を目指して期待に込めて参ります。

⑫ 自治区の設置は議会の議決で決まるのか、各地域の決定で決まるのか。

地方自治法上の自治区ではなく南部町独自の任意の組織を構想しています。設置については各地域の合意を得ながら、条例上の位置付けをはっきりして置く為の議決をお願いしようと考えます。この他に町が自治組織に出す

補助金、委託料などの予算についての審議を受け議決を頂く事となります。

**Q** 最後に、今後の予定をお聞かせください。

**A** 出来るだけ速やかに自治区が創設されることを希望していますが、何よりも住民の皆さんが「自分達の地域は自分達で良くして行こう」と言う意気に燃えて頂かなければなりません。もっともつとご理解を頂く努力が必要だと考えます。会見では全集落で開催しましたが、話題が行政各般に亘るものであった事、西伯では話題を絞ったものの集落でなく地区単位の説明会をした事といずれも取り組みの弱さがありますので、当面、区長さんや各種団体などに対しての説明会をはじめ、アンケートや希望集落への出前説明会などの開催を通じて一層のご理解を頂くように努力しなければならないと考えています。

ありがとうございました。

新しい地域づくり、自治組織を目指し町長の思いを語っていただきました。

昔ながらのつながりを大事に生かしながら、新たな枠組みで、よりきめ細かい行政サービスを展開していくため、町民のみなさんからも幅広い意見を求めたいと思います。